

体験したことを自分の言葉でまとめる

実用作文の指導法

これからの激しく変化していく社会においては、目的や必要に即して、説明文・記録文・手紙文・感想文・報告文・意見文等々の実用的なジャンルの文章技術が重要になってきます。そこで、国語教師は、子どもたちの無限の可能性を踏まえた上で、既成の概念や方法にとらわれず、21世紀を生き抜くための教育における実用作文の指導法を開拓しなければなりません。

記録文の実用性

情報化の時代には、必要な知識・情報を精選し、それらを活用する頻度は当然高くなるはずです。これまでの記録文は、どちらかというと備忘的役割が強かったが、これからは学習記録、観察記録、研究記録、読書記録、見学記録、生活日記、学習ノート等を、目的や必要に応じて情報活用材として役立てるという機能を強化することが大切です。また、自力で学校外での価値ある体験を精選・構成して記録することなどは、教育活動活性化のためにも有意義なことです。

学習活動例

学習活動例として、以下のことが考えられます。

- (1) 夏休みに体験したボランティア活動についての記録をまとめる。
- (2) 中学校最大の行事である「修学旅行」の文集を作るために、構成を工夫した記録をまとめる。
- (3) 体育祭の感動を表現し、記録に残す。
- (4) 家庭生活あるいは地域における学習活動において獲得した知識や技術の要点を記録しておく。
- (5) 生徒が書いた理科の観察レポートや社会科の調べ学習のレポート、あるいは、音楽の鑑賞文などを教材として学習する。
- (6) 学級日誌、学年通信、文集、学校新聞などを教材として学習する。

実践例

体験したことを自分の言葉でまとめる例として(1)を挙げます。

(1) 書く目的

夏休みに体験したことを記録するために書く。

(2) 書く目標

- 自分の考えがわかるように書く。
- 事実と意見の区別に注意して書く。
- 文脈にふさわしい語句を選び、文章構成を工夫して書く。
- 意欲をもって最後まで書く。

(3) 書く手順

- | | |
|----------------|--------------|
| ① 題材を選び、決定する。 | ⑤ 文章の構成を考える。 |
| ② 主題を短くまとめる。 | ⑥ 下書きをする。 |
| ③ 仮題を考える。 | ⑦ 推敲し、清書する。 |
| ④ 体験した事実をメモする。 | ⑧ 発表する。 |

(4) 教師の適切な助言

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| ○ 題名や書き出しを工夫する。 | ○ 「まず、次に、」などの接続語を適切に使う。 |
| ○ 小見出しや写真などを使う。 | ○ 結びは、印象的な表現にする。 |

「書くこと」の重要性

記録文を書く機会を多く設定し、それを必要に応じて活用するよう支援することが大切です。客観的に記録させるためには、色・形・数量・記号・符号・図解・図式化等の的確な表現を工夫することにも配慮したいものです。

これらの学習活動を組織するときには、ぜひ上級生の作品やモデル作品を活用するのが効果的です。また、地域や学校、生徒の実態に応じた生きた教材を開発したいものです。

今後、「書くこと」の活動が、様々な学習場面で活用されていくことでしょう。討論においてメモや記録を取る、調べたことを書く、観察したことを書くなど、「書くこと」の活動が、ますます重要になってくるのではないのでしょうか。